



しほろ

平成21年2月 No.131

議会だより

■発行／士幌町議会 ■編集／士幌町議会広報特別委員会
ホームページアドレス <http://www.shihoro.jp/hp/gikai2/index.htm>



3年ぶりに町民有志で行われた「冬まつり」

審議した議案

町修学資金貸付条例を可決ほか……………2ページ

一般質問

美濃市との交流について ほか4件……………4ページ

町議会を傍聴して

柏樹大学運営委員 会長 河太 利夫さん……………6ページ

委員会報告

高等学校における支援教育の実態についてほか…6ページ

かけ橋

「教育委員就任にあたって」

士幌町教育委員会 委員 末永 秀雄さん……………8ページ



すずらんの家の子供たちが制作した氷の作品

一般会計総額 1億5418万円の補正予算を可決

主な補正内容は、次のとおりです。

- 地域情報通信（ブロードバンド）実施設計委託業務および基盤整備工事 1億円
- プログラム（個人住民税公的年金特別徴収）変更委託料 672万円
- 訪問介護（ホームヘルパー）事業運営助成金 600万円
- 川西保育所備品購入 450万円
- 中土幌リサイクルセンター施設備品（フォークリフト更新）購入 280万円
- 冬季失業対策事業（教員住宅ほか解体工事） 600万円
- 勤労青少年アパート内部改修工事および備品購入 544万円
- 中土幌小学校改修（屋根耐震補強）工事 1747万円

臨時町議会

第6回臨時会

11月21日

■へき地保育所条例の一部改正

川西へき地保育所新設等による名称位置の変更並びに保育料の改定を原案可決

■一般会計補正予算（第6号）

5,352万円の追加を原案可決

[主な補正内容]

- ・低公害車購入 303万円
- ・ミニホイールローダー購入 294万円
- ・認定こども園施設改修（監視カメラ増設ほか） 439万円
- ・佐倉地区バイオガспラント発電設備工事 3675万円

人権擁護委員の推薦



任期満了に伴い、嶋田美代子さん（高徳）の再推薦に同意。

選挙管理委員および同補充員の選挙



任期満了に伴う選挙の結果、選挙管理委員に佐藤秀勝さん（新生）、



河江信一さん（新生）、



木裕一さん（中土幌新南）、山岸厚子さん（佐



倉南）が、同補充員に吉田均さん（仲通）、波

多野弘幸さん（開運）、嶋田和子さん（旭南区）、堀江明美さん（百戸）が当選。

第3回定例会以降の町政推移について報告がありましたので、要約お知らせします。

◆第3期行政改革推進大綱

21年度から23年度を実施期間とした大綱ならびに推進計画を策定する。21年度予算に反映させて推進していきたい。

◆町づくり基本条例

11月に町民会議より素案の答申を受けて、現在、パブリックコメント（公共の意見募集）を実施中。21年1月中旬に、議会審議を経て条例化した。

◆水道使用料

5年毎に使用料見直しの検討しており、その結果、今後5年間は現行の料金体系を維持していく。

◆地上デジタル放送対応および無線ブロードバンド事業

難視聴地域解消に向け、20年度・21年度で事業を実施。22年3月の供用開始を目指し、今議会に補正予算を計上。

◆福祉灯油

対象と思われる約359世

帯に対し、個別に周知。申請に基づき、一世帯当たり20L券5枚を配付予定。

◆国道274号別線ルート

計画路線を特定作業中。今後、関係地権者に路線を提示後、用地取得の手続きに着手する。

◆地域経済の活性化

農業と商工業が連携を進めるため、庁内に検討チームを設置。農商工連携制度の調査・研究、建設業の新分野進出、地域雇用対策など具体的な検討を進め、農協、商工会と連携して推進していく。

◆特定検診

農閑期を迎え、12月の巡回型は90人を超える申し込み。受診率30%達成に向けて積極的に推進する。

◆公立病院改革プラン案

計画案を基に、町民から意見を募集。これからの病院の在り方について検討を行う。特に本年度は、病床利用率70%以上確保に向けて一層の努力をしていく。

行政報告

平成20年 第4回定例会

一般質問

加納三司 議員：美濃市との交流について
清水秀雄 議員：後期高齢者医療制度について
出村 寛 議員：障がい者自立支援の今後の施策について

大西米明 議員：新型インフルエンザの町の対策状況について
和田鶴三 議員：学校プールの改修について

民間交流の促進を

補助制度を検討へ



加納 三司 議員

質問 近年、美濃市児童の受け入れ先となるホストファミリーの確保が困難になってきている。美濃市との交流に理解を深めてもらうためにも、民間交流を促進していく必要があると思う。

町として何か方策を考えているか。

町長答弁 民間レベルによる交流拡大が重要であると認識している。都市交流推進委員会の中で十分検討し、今後の展開を図っていききたい。

再質問 美濃市では、土幌町民間交流促進と



美濃市・土幌町
小学生フレンドシップ交流事業対面式（8月25日）

して、1人当たり2万円の補助金制度がある。本町もこういう制度をつくって民間交流を盛んにし、子どもの受け入れに対する理解を得てほしい。

町長答弁 美濃市の補助金制度を参考にしながら、民間交流が充実するよう検討していきたい。

保険証取り上げは

しないと明確に

悪質な場合に限定して



清水 秀雄 議員

質問 この制度は後期高齢者を差別することから①根本的に制度の廃止、撤廃を求めること。②保険料を1年以上滞納すると保険証が取り上げられるが、これを中止させること。

後期高齢者広域連合は、自治体が滞納者と接触し相談業務を行っている限り、1年間滞納したからと言って、事務的に保険証を取り上げ資格証を発行することは行わないという。本町は、低所得者から保険証を取り上げることはしないと明確にしたい。



高齢者が安心して受けられる医療を

町長答弁 ①即、撤廃になれば大混乱になり、現実的な話ではない。制度的にも実態としても差別医療にならないと認識している。②国も全く連絡がないという悪質な場合に限定している。基本的には、お金がなくても医療、介護を受けられるようにするのが行政の大きな仕事。そういう考えで対応していきたい。

町長答弁 ①施設入所者数は28名で、退所人数の確定に至っていない。受け皿となる居住施設がなく、施設の確保に向けて認知症のグループホームで利用できるよう国の特区も含め国、道と協議を行い、認知症の高齢者と障がい者が



出村 寛 議員

質問 障害者自立支援法

が施行され、障害の程度区分により施設を退所せざるを得ない状況に置かれている。出身町村で受け入れ態勢を整えなければならぬが①本町の退所者数は何名か。受け皿はどのようになっているのか。②地域活動支援センターの設置をどのように考えているのか。

将来の障がい者の住・働の不安解消は前倒して地域活動支援センターを設置

共有できる施設として、フロンユニット9床を介護保険の中で設置予定。
②22年4月開設すべく、現在準備を進めている。



大西 米明 議員

質問

香港で毒性の強いH5N1型鳥インフルエンザの鳥から人への感染が初めて確認され、近年研究者の間では、新型インフルエンザウイルスによる新たなパンデミック、すなわち世界大流行の危

パンデミックで町内34名死亡想定 正確な情報を提供

機が間近に迫っていると言われている。

国、道は対策として行動計画を策定し、取り組み内容を示しているが、町の対策は。

町長答弁 本年11月28日に

市町村の担当者を対象に「新型インフルエンザの発生に備えて」というテーマで、研修会が開催された。

今後、十勝において20年度中に保健福祉事務所を中心に十勝インフルエンザ対策連絡



町で実施しているめぐもりデイケア

会議を設置する予定。町として研修内容を踏まえ保健福祉課で、今後の対策について体制整備の支援作業、行動計画の作成などを内部で検討している。

当面、町広報などで特集を設けて正確



和田 鶴三 議員

質問

学校プールは、近年老朽化が激しく、使用できないところが目立ってきている。学校教育のためにもプールの改修を行うべきでは。

教育委員長答弁 各学校と

学校プールの改修を町内プールで対応

も老朽化により改修がふえることから、学校プールを集約し、町民プールを長期間天候に左右されず使用できるように、暖房設備等の整備をすることを選択肢として検討していきたい。

当面は、応急的な修繕を行いたい。



パンデミック時の感染防護服

な情報を町民に提供し、適切な対応を行う。

総務文教常任委員会報告

支援教育への理解と体制づくりを

▼調査事項
高等学校における支援教育の実態について

大学・病院・養護高等学校等との連携した支援活動で、校内体制の整備と教職員の意識改革を進めている。また、農業高校の特長を生かした実学教育を取り入れ、社会で生きる実践力を身に付けさせたいという思いを感じた。

▼調査日および場所

7月16日

名寄農業高等学校

10月14日

士幌高等学校

11月7日

委員会室

▼所感

学校教育法の改正により、全ての学校において発達障害（LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等）を含めた特別支援教育が昨年4月から本格的にスタートした。

その中、名寄農業高校は文部科学省の「高等学校における発達障害支援モデル事業」研究校の指定を受け、昨年度から2年間の事業として生徒への就労支援等に取り組んでいる。校内委員会設置や研修、

一方、士幌高校は高大連携で農業教育の専門性を向上させ「ものづくり」が出来る人材育成の学校運営を目指している。近年、特別支援を必要とする生徒が増加傾向にあり、生徒一人ひとりのニーズに合った支援体制づくりに苦慮している現状が伺えた。今後は、教育計画等において支援教育への目標を掲げ、研究会等を通じて教師間の共通理解のもと「愛情と熱意」をもった生徒への支援教育と社会自立に向けた就労支援の体制確立、さらには日頃から保護者との連携を深めていくことが重要と考える。

なお、文部科学省の生徒支

議会日誌

「10月」

- 3日 十勝管内へき地複式教育研究大会士幌大会
- 7日 広報特別委員会
- 9日 十勝町村議長会議員研修会
- 10日 北十勝4町意見交換会
- 14日 総務文教常任委員会所管事務調査
- 19日 しほろ収穫祭
- 23日 北十勝4町身体障害者分会研修会
- 27日 海外文化交流団出発式
- 28日 産業厚生常任委員会所管事務調査
- 30日 広報特別委員会

「11月」

- 6日 国道274号別線ルート整備促進期成会役員会
 - 7日 広報特別委員会
 - 11日 総務文教常任委員会
 - 11日 功労者選考委員会
 - 12日 産業厚生常任委員会
 - 18日 町村議会全国大会及び道外視察
 - 21日 第6回臨時町議会
- 議会運営委員会
議員協議会

町議会を傍聴して

士幌町柏樹大学運営委員会

会長 河太 利夫さん

私たち柏樹大学生は、今回授業の一環として、12月定例町議会的一般質問を午前中のみ傍聴しましたので、感想を寄せたいと思います。

この日は、美濃市との都市交流・後期高齢者医療制度・障がい者自立支援の今後の施策・新型インフルエンザの対策状況について4名の議員の一般質問を聞くことが出来ました。新型インフルエンザについての質問では、国や道の対策の内容や、それを受けて今後町がどのような対策を考えているかなど、我々が知らない



一般質問を熱心に聞き入る傍聴者

かった点を追求し、広く町民に周知するよう要請するなど議員の活動が見えるいい機会になりました。どの質問者も住民の事を考え、町長の答弁に対し再質問・再々質問を行うなど情熱溢れる姿勢で頼もしく思えました。

問題点を鋭く追求する議員、答弁する町長、そのやりとりは、この議会日よりなごで紹介されていますが、直接傍聴すると迫力・印象は、また違ったものがあります。まだ傍聴したことのない方は、一度傍聴することをお勧めします。

援として今年度教員3名が加配されており、今後の成果が期待される。

一般的に「特殊教育」と「特別支援教育」の違いや発達障害への理解がまだ認知されていない状況にある。町教育委員会及び高校は、保護者、地域等に対し正しい理解が深まるよう説明等に努めることが肝要と思われる。また、長期的なビジョンに立って行政、医療、福祉、労働関係機関との連携を進め、卒業まで一貫した支援体制への構築が望まれる。



士幌高校を授業参観

産業厚生常任委員会報告

太陽光発電が最も有益な自然エネルギー

▼調査事項

牛ふんペレットと新エネルギーの展望について

▼調査期日及び場所

10月28日 帯広市 日本貿易株式会社
10月29日 札幌市 経済産業省北海道経済産業局、㈱ノースパワー
10月12日 委員会室

▼所感

本町では約4万頭の肉牛が飼育されており、これらから排泄されるふん尿処理が大きな課題となる中、管内で牛ふん堆肥をペレット状にし、燃料として製造している施設があることから調査を行った。併せて、経済産業省北海道経済産業局に赴き、北海道にふさわしい新エネルギーの展望や自然エネルギーを利用した各種の発電機器についても調

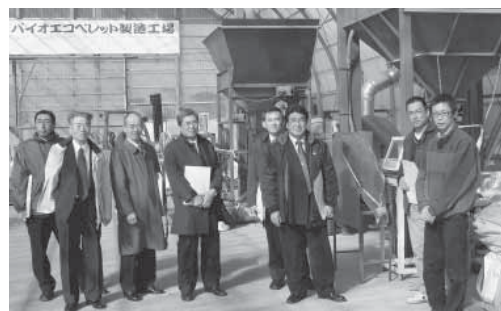
査を行った。

牛ふん堆肥を燃料にするに云った発想であるが、100頭規模の畜産農家からは年1500トの牛ふんが排出され、約300トのペレットが製造される。一般家庭での使用料はひと冬2・5ト前後であることから、牛1頭で1軒の燃料が賄える計算である。しかし、ペレットストープが20〜30万円と高額であることや、原料のバーク堆肥も化成肥料の高騰に伴い、畑作農家からの引き合いによって単価の高騰や原料不足が懸念される。

その点、太陽光や風力、水力と云った自然エネルギーは、原料自体にはコストが掛からず大きなエネルギーが得られるため、大いに活用すべきと思われる。ただし、風力は設置場所の制約、バイオマスはランニングコスト、水力は水利権による規制、廃食油リサイクルは量的確保等の課題も提起されている。従って、新

エネルギーの中では太陽光発電が最も身近で容易にエネルギーが確保され、また国の補助等も視野に入れると、最も有益な発電媒体であると思われる。

なお、利用可能な環境にあれば、エネルギー密度が高くと小規模ながら24時間安定して電力が得られる水力発電を、他の自然エネルギーに優先して利用することが得策と思われる。士幌町内には明渠排水等による落差溝も多いことから、「構造改革特区」により、水利権が設定された河川を利用した水力発電を全国に先駆けて取り組むことも肝要と思われる。



エコペレット製造工場を視察

「12月」

23日	北中音更小学校開校100周年記念式典及び祝賀会
25日	道外先進地行政視察〜29日
28日	十勝圏複合事務組合議定会定例会
30日	士幌小学校開校100周年記念式典及び祝賀会
1日	議員協議会
4日	議員協議会
5日	十勝町村議会議長会定例会
7日	西上地区開拓100周年・西上音更小学校開校90周年・士幌町農協西上事業所開設45周年記念式典及び祝賀会
9日	平成20年度納税表彰式
7日	議会運営委員会 第4回定例町議会（〜17日） 議員協議会 議会運営委員会 総務文教常任委員会 産業厚生常任委員会 議員定数等検討特別委員会 士幌町連合青年団創立50周年記念式典
21日	北十勝消防事務組合議定会定例会
22日	北十勝2町環境衛生処理組合議定会定例会
25日	北十勝2町環境衛生処理組合議定会定例会

教育委員就任にあたって

土幌町教育委員会 委員 末永 秀雄 さん



昨年10月、谷本委員の後を

受け新たに教育委員に任命されました。就任前は、学校教育、教育行政あるいは委員はその様な責任を負い何をなすべきか、全くわからない状況での就任でした。就任後4か月近くたちましたが、その間、先輩委員の方々、委員会職員に私達の取り巻く状況や委員としての責務等を色々と教えていただきました。また、新任委員の研修会に参加し、意識の向上を図ることが出来ました。

11月に各小学校の学習発表会が開催されましたが、短い時間内ではありましたが見学をさせていただきました。各学校それぞれが工夫と長期の練習の成果を十分に発揮し、一生懸命演じる姿は素晴らしい

いものがありました。

今、子供達を取り巻く環境は様々な厳しいものがあります。学習面、友人関係、家庭状況等多様な問題を抱えているように思います。しかし、これらの問題の多くは、私達大人社会の反映ではないかと思えます。私達大人が作り出す社会は、自己の利益追求が過度に現れているように思われます。それが摩擦となり軋轢を生じているように思われてなりません。様々な社会の矛盾が私達大人にも多大な影響を与え、それが自殺やいじめ、非行に繋がっているように思います。これからの社会、未来を担って行くのは今の子供達です。そしてこの子供達は、素晴らしい創造性と可能性を秘めています。私達大人

は彼らに何を残し、何を伝えていかなければならないのか、今一度深く考える必要があると思います。また、これらの私達がつくり出している問題、課題を解決するためには、今私達の思考の枠組を大きく変えていかざるを得ないだろうと考えています。人間として今なぜ私達はここに存在するのか、心の本質的な側面まで踏み込まなければ問題は解決しないように思います。

今後4年間微力ではありますが、多くの町民、学校関係者の方々と共に土幌町の教育向上のために取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



平成21年も静かにそして穏やかに明け皆様には、御壮健で新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。新しい一年が始まり、それぞれに良い一年であることを願ったと思います。

しかし毎日、新聞やテレビで報道されるニュースは暗く悲しいことばかりで、特に百年に一度といわれる経済不況による派遣社員切り、内定取り消し。また、世界に目を向けると中東での戦争、地球温暖化など大きな問題が数多くあります。いずれも「土幌町に関係ない」「対岸の火事」ではない

いのです。いずれ私達の身に大きく降りかかることばかりです。町民一人ひとりがこれらの問題に目を背けることなく自らの考え、意見をしっかりと持ち、日々生活して行くことが大切であると思えます。議会も我が町の行く末をしっかりと見極めて行きたいと思えます。

平成20年第4回定例議会が12月12日に招集されました。一般質問が行われた16日には38名の傍聴者が有り、議員、理事者の質疑応答を熱心に聞き入ってあられ、町民の皆様の関心の高まりを感じました。議会は議員だけの活動の場だけではなく、全町民と議員の活動の場です。多くの御意見、御感想をお寄せください。

細井 文次

3月定例議会を傍聴しましょう

第1回定例議会は、3月6日からの開会予定です。

詳しくはチラシでお知らせしますので、多くの方の傍聴をお待ちしています。

12月定例議会の傍聴者数は、延べ41名でした。